

100万人達成 !!



襟に「入館100万人記念」と書かれたはんでんを着る山岸諭子さん(中央)と、ときものぬいぐるみを持つ山岸洋次郎さん(左)

昨年9月に開館から10周年を迎えた川越まつり会館。3月2日、入館者数が100万人を達成しました。記念の来場者となったのは、市川市から訪れた山岸洋次郎さんと諭子さん。川合善明川越市長から、記念のはんでんやときものぬいぐるみなどが贈られました。「100万人目と聞いて、とても嬉しいです。まつり会館の山車の迫力に驚きました。今度は川越まつりのときに来てみたいです」と、山岸さん。

デートのまち 川越

まちなかの交流人口等の増大を図るまちなか再生支援事業。市ではこれからの川越には若者の誘客も必要と、「若者が訪れたいまち、住みたいまち」に焦点を当て、立教大学・跡見学園女子大学・淑徳大学と連携して事業を進めました。3月10日に行われた報告会では、若者を呼ぶには川越でデートが楽しめるよいのは、と企画された「川越フォト♥コン」や「川越夜ごはんMAP」等の成果を発表。市内に住む佐藤未来さん(跡見学園女子大学3年)は「大好きな川越の魅力を見つめました。同世代の人たちに、もっと川越のまち歩き情報を発信することが必要だと感じました」。



川越のまちを歩き、魅力を調査



男子目線・女子目線のお店の感想が載っている「川越夜ごはんMAP」。市ホームページで確認できます



ふおとニュース



ぬいぐるみが選んでくれたよ



ぬいぐるみお薦めの本がズラリ。「どの本を読もうか迷っちゃう」

3月15日、西図書館で開催された「ぬいぐるみおとまり会とおはなし会」。ぬいぐるみが子どもたちと一緒におはなしを聞いたり、お薦めする本を紹介したりします。実はその本、前日に子どもたちが預けたぬいぐるみが、夜の図書館を探検して、子どもたちに選んだ本。小学2年生の石井琴美さん(末広町3丁目)は「いつも一緒に寝ている大好きなぬいぐるみが選んでくれた本を、いっぱい読みたいです」と話してくれました。



「今読んで!」と、その場でお母さんに読んでもらう子も

芳地戸のふせぎ



白い札が付いている竹の棒が礼辻。「雨だと重く感じるけど、今日は軽い!」と、参加した小学生

3月21日、尾崎神社(笠幡)で芳地戸のふせぎ(市指定無形民俗文化財)が行われました。午前中に神社の境内でみこしや礼辻を作り、午後は地域の家を回ります。ふれ太鼓を務めた小嶋奈美恵さん(笠幡)は「小さい頃から見てきた祭礼の大役を任せられ、とても嬉しいです。太鼓の音は悪いものを払うと子どもの頃に教わりました。自分で打つとすがすがしい気持ちになります」。



女性によるふれ太鼓は初めて